

# 平成17年のアユ産卵調査およびヒウオ生息状況調査結果

酒井明久・片岡佳孝

## ◆背景・目的

加入前のアユ資源の水準を評価するため、産卵状況およびヒウオ（アユ仔魚）生息状況を調査した。

## ◆成果の内容・特徴

- ・ 県内の主要産卵河川（11河川1分流）において、平成17年8月下旬から10月にかけて5回実施した産卵調査では、平年値を上回る153.3億粒の有効産卵数が認められた（図1）。
- ・ 琵琶湖北湖において、平成17年10月から12月にかけて3回実施したヒウオ生息状況調査では、第1次調査において平年を上回る251尾/網が採集されたが、第2次、第3次調査では採集尾数が大幅に減少した（図2）。
- ・ 採集したヒウオのふ化時期は、第1次調査では産卵盛期である9月中旬、第2次、第3次調査では産卵期終盤の10月中旬および10月下旬をそれぞれ中心としており、第1次調査結果が最も資源水準を反映したものといえる。

## ◆成果の活用・留意点

- ・ 平年を上回る資源尾数が確保されたが、平成17年12月の記録的寒波以降、琵琶湖の水温が例年より低下しているため、アユの成長にマイナスに作用することが予測される。

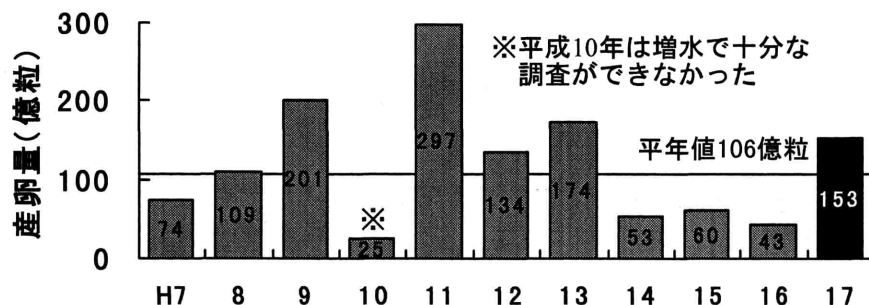


図1 天然河川におけるアユの産卵数の推移。  
（平年値は平成7年～16年の最大・最小を除く8年間の平均値）

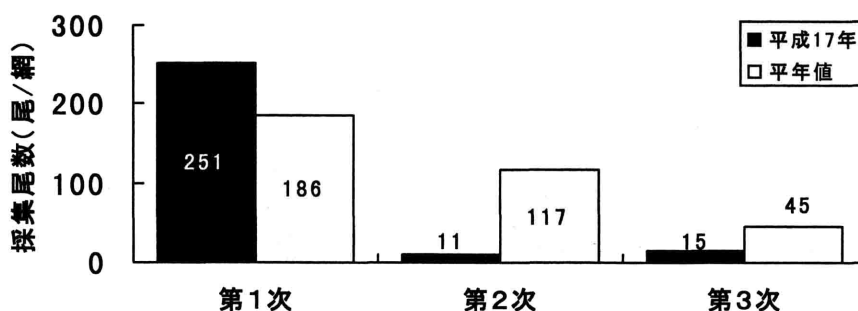


図2 平成17年のヒウオ生息状況調査結果。  
（平年値は平成7年～16年の最大・最小および欠測を除く7年または8年間の平均値）